



北九州市 発達障害者支援地域 協議会・専門部会

第二部会・強度行動障害支援

検討部会（第二回）

2021.7.20 19:00～

本日の予定

※ 20時15分
終了

《事務局説明》 ※ 一括説明

- 1 第一回会議の振り返り
- 2 今後の進め方について
※ 調査・骨格検討部会「基本の手立て」について
- 3 基礎データ分析結果について

《意見交換》

基礎データ分析結果について（基礎データから見えるもの）
その他（今後の進め方 等）

1 第一回会議 の振り返り

(部会長基調講演より)

提言1 実態調査の実施

(当事者と家族、支援者の抱える困難を地域社会に向け明らかにする)

提言2 地域協議会の設置

(開かれた議論のもとで強度行動障害に係る地域支援体制の全体構想を策定する)

提言3 アウトリーチ支援チームの設置

(専門性の高い支援者からなる支援チームを編成、各現場に即時介入して行動問題の改善を図る)

提言4 拠点施設の整備

(強度行動障害のある人を一定期間、受け入れて集中支援する施設を整備)

1 第一回会議 の振り返り

(部会長基調講演より)

提言5 生活の場の確保

(家族から自立して地域で生活できるよう、必要な支援を備えた生活の場を確保する)

提言6 教育と普及啓発の推進

(多職種と保護者のための体系的かつ実践重視の教育や、自閉症支援の普及啓発に取り組む)

提言7 必要な人材確保とインセンティブ制度の導入

(必要な職員の加配や、専門的支援に携わる従事者を対象とした報酬の加算)

第一回会議の 主な意見

《部会長まとめ》

現場では大変な状況の中、厳しい状況の当事者と直接対峙している。そうした最前線の話聞き、そこから一人でも多く地域生活へ移行できるよう協力を求めたい。

・落ち着いている人はどう対応しているのか、調べてほしい。

・行動障害は軽減可能。共通の支援法で連携して支援したい。

・専門性のあるアウトリーチ支援チームや、支援拠点が必要。

・強度行動障害の人を夜間受け入れてくれるところがない。

・本当に強度行動障害が防げるのか。行動の激しい人は職員が殴られたり、異食行為などが頻繁で常に注意が必要。

・療養介護施設で強度行動障害の人を受け入れて対応していることを正しく認識してほしい。（介護報酬改定で明文化）

・精神科病院は職員も少なく、受け入れても保護室での隔離対応とせざるを得ない。

・総合療育センターで強度行動障害の人を診るべき。

2 第二部会の 今後の進め方 について

〔目的〕

強度行動障害について、予防から早期介入・集中支援、「支援付き」地域生活への移行まで一貫した支援システムを構築することにより、重度の障害があっても地域で暮らせる環境をつくる。

《具体策の検討》

- ・行動障害の予防については他部会でもあわせて検討（※ 調査・骨格検討部会「基本の手立て」）
- ・第二部会では主に早期介入・集中支援・地域移行のシステムを中心に検討

（※ 予防も重視しつつ、アウトリーチ支援チーム、施設等コンサルテーション、集中支援の拠点等について検討）

〔会の運営方針〕

強度行動障害の定義、国における施策の体系とその動向、本市における当事者・家族・支援の場の現状をよく理解したうえ、必要かつ有効な施策を検討。

2 第二部会の 今後の進め方 について

〔目的〕

強度行動障害について、予防から早期介入・集中支援、「支援付き」地域生活への移行まで一貫した支援システムを構築することにより、重度の障害があっても地域で暮らせる環境をつくる。

《具体策の検討》

- ・行動障害の予防については他部会でもあわせて検討（※ 調査・骨格検討部会「基本の手立て」）
- ・第二部会では主に早期介入・集中支援・地域移行のシステムを中心に検討

（※ 予防も重視しつつ、アウトリーチ支援チーム、施設等コンサルテーション、集中支援の拠点等について検討）

〔会の運営方針〕

強度行動障害の定義、国における施策の体系とその動向、本市における当事者・家族・支援の場の現状をよく理解したうえ、必要かつ有効な施策を検討。

2 第二部会の 今後の進め方 について

○ 第二回会議（7月）

- 1 今後の部会運営について（事務局提示）
- 2 障害福祉サービス等の現状について（基礎データ分析結果）、今後の調査等について

○ 第三回、第四回会議（8～9月）

国の政策や先進事例等の学習会

〔講師〕

国立病院機構肥前精神医療センター 療育指導科長 會田 千重 氏

社会福祉法人 横浜やまびこの里 志賀 利一 氏

福岡市社会福祉事業団 障がい者地域生活・行動支援センターか～む

所長 森口 哲也 氏

2 第二部会の 今後の進め方 について

○ 第五回会議（10月）

実態調査（アンケート等）結果報告

部会構成員プレゼン1

（学校、当事者家族の現状 … 奥田、黒木、横田、小柳）

重点施策について

○ 第六回会議（11月）

部会構成員プレゼン2

（入所施設、通所施設の現状 … 長森、右田、高村）

重点施策について

○ 第七回会議（12月）

※ 必要があれば複数回開催

議論のまとめ

（全体会報告内容、次年度からの重点施策）

《参考》 調査・骨格検討部会「基本の手立て」

発達障がいのある人の日常生活を支える「基本の手立て」の定義

【大きな定義】

個の障がい特性に応じた、様々な生活場面における
根拠ある支援ツールの導入及び生涯にわたる支援実践。

【順序性で整理した下位の要素】

- ① 個の困り感の気づきの実態把握の方法、特性を理解するアセスメント・ツール
…各現場での当事者の実態把握、心理学的な検査ツール
- ② 各障がい特性に適した支援を実践するための関連機関の連携・活用
…医療機関の相談、福祉・教育・労働・家族等との連携、専門機関からの助言、当事者・家族を支える相談機関等
- ③ 一般的な各障がい特性に対する配慮方法
…聴覚過敏に対する刺激の除去、明確な見通しの提示等
- ④ 日常生活の各生活領域（身辺自立、コミュニケーション、学習、職業、社会性（集団生活）、余暇等）を支える支援ツール
…視覚的な手順手がかかり、コミュニケーション・カード、スケジュール等
- ⑤ 個の特性に応じた支援の検討過程
…個別の支援（指導）計画、PDCAサイクルの支援体制等
- ⑥ 専門的な手法
…TEACCH、応用行動分析学、PECS、感覚統合療法等

3 基礎データ 分析結果に ついて

《概要》

市内の障害福祉サービス利用者に係る「障害支援区分」の認定調査項目のうち「行動関連項目」の合計点数が10点以上の人を抽出し集計、分類。

※ 行動関連項目10点以上

→ 行動援護、重度訪問介護、重度障害者等
包括支援の対象

※ 18歳未満は含まない

3 基礎データ 分析結果に ついて

《分析結果概要》

◇ 対象者数及び点数

- ・ 対象者（10点以上）：864人
- ・ 最高点：21点（満点24点）で6人
- ・ スコアの分布：10点～13点が各110人前後で全体の52%

◇ 年齢構成

- ・ 20代～50代までが724人（84%）、うち40代が224人（26%）で最多

◇ 性別

- ・ 男性567人（66%）、女性297人（34%）

◇ 障害支援区分

- ・ 区分6が642人（74%）で最多、区分5・6では829人（96%）

3 基礎データ 分析結果に ついて

◇ 生活場所

- ・ 入所型の施設が 4 8 6 人 (5 6 %) で最多、
自宅は 2 6 9 人 (3 1 %)

◇ 手帳所持者数 (※重複あり)

- ・ 療育手帳
8 1 1 人 (9 4 %)、うち A 判定が 7 0 1 人 (8 1 %)
- ・ 身体障害者手帳
1 9 8 人 (2 3 %)、うち 1 ~ 4 級が各 5 0 人前後 (9 3 %)
- ・ 精神障害者手帳
3 0 人 (3 %)、うち 1 級 : 1 8 人、2 級 : 1 2 人

3 基礎データ 分析結果に ついて

◇ 行動関連項目(12項目)において、特に支援等が必要なもの
〔参考〕

【「できない」とされる項目】

- ・ コミュニケーション：412人（48%）
- ・ 説明の理解：864人（100%）⇒全ての者が「できない」

【「ほぼ毎日支援が必要」とされる項目】

- ・ 大声・寄声を出す：707人（82%）
- ・ 多動・行動停止：689人（80%）
- ・ 不安定な行動（パニック等）：508人（59%）
- ・ 自らを傷つける行為：485人（56%）
- ・ 他人を傷つける行為：517人（60%）
- ・ 不適切な行為（急に他人に抱きつく等）：651人（75%）
- ・ 突発的な行動（突然走っていなくなる等）：509人（59%）

3 基礎データ 分析結果に ついて

◇ サービス利用状況等

《 サービス種類毎の人数（※重複あり） 》

- ・ 生活介護 738人（※施設入所者を含む 85%）
- ・ 短期入所（ショートステイ） 66人
- ・ 就労継続支援B型 37人（※施設入所者を含む）
- ・ その他 … 居宅介護（30人）、重度訪問介護（2人）、
行動援護（2人）、重度障害者等包括支援（0人）

《 施設入所者等 》

- ・ 入所型の施設 : 485人（うち市外322人）
→ 療養介護44、施設入所441
- ・ グループホーム : 105人（うち市外37人）

3 基礎データ 分析結果に ついて

◇ 生活の場ごとの年齢構成について

《 生活の場が「自宅」 (286人) 》

- ・ 20代 127人 (44%)
- ・ 30代 61人 (21%)
- ・ 40代 33人 (12%)

《 生活の場が「入所型の施設」 (486人) 》

- ・ 40代 161人 (33%)
- ・ 50代 120人 (25%)
- ・ 30代 74人 (15%)

《 生活の場が「グループホーム」 (97人) 》

- ・ 40代 28人 (29%)
- ・ 50代 22人 (23%)
- ・ 30代 21人 (22%)

4 今後の データ分析 等について

◇ 本件データについては、強度行動障害支援システムの構築に向けた基礎データとして活用。

◇ これらの基礎データから把握できない内容については、当事者家族向けアンケート調査や相談支援機関等への個別ヒアリングを実施。

◇ アンケート調査の項目・内容等については専門部会で今後検討。（事務局で「たたき台」提示）